

KI-MONO.ORG

ceci n'est pas un kimono



<http://ki-mono.org/>

(着物を使って)自分も楽しむ、そして、結果的になんらかの形で社会にコミットすることになるひとつのムーブメントにしたい、というのが目的です。 代表 Hiroko Shohoji

日本の伝統的な着物って、とても美しいし洗練されているものですよ。

でも、洗練されすぎて近づきがたいとも言えるかも・・・。

日本人家庭の箆笥の中に、使われるあてもないまま眠っている着物がたくさんあるのは、そういう理由によるのかもしれない。

金沢にある着物問屋 丸六株式会社の社長である篠原淳さんは、使われることなく眠っている着物の再利用の可能性を探るべく、そういう着物の回収を思いつきました。そうやって集まった着物は、彼の考えをはるかに上回った数となり、今会社の倉庫には、集まった着物が山となって積み上げられています。

この篠原氏と知り合う機会を得た私たら、その倉庫の着物を生かす方法を考えることにしました。そして思いついたのが、その着物を難しい伝統に縛られることなく再利用するという、ちょっとしたムーブメントを起こすことです。もちろん伝統に沿った方法で身につけることだってありだし、日常の服の上に羽織って使うことだって、生地を使ってまったく別のものを作り出すことをしたっていい。これを読んでいるあなたも、ジーンズの上に着物を羽織れば、あるいは、ワンピースに帯を組み合わせれば、もうすでにこのムーブメントの担い手のひとりなのです。私たらはこのムーブメントを、ルネ・マグリットの有名なフレーズをパクって、《Ceci n'est pas un kimono》と名づけました。

篠原氏の思いは、まず金沢在のアーティストへ伝わり、さらにブリュッセルやパリに住むアーティストへと広がりました。それぞれが制作をスタートさせています。自分自身がばっちり楽しみながら、しかもそれが少しは他の人たちの役に立てば嬉しい、と考えています。将来、あれこれ、結果的にけっこうエコロジックな活動になったはず、なんて言える日がやってくれば、なんて素敵でしょう。興味のある方は、FBにアップした作品をぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/KIMONO.ORG>

金沢の着物問屋 丸六株式会社: <http://www.maru-x.co.jp/>
E-boutique: <http://heyreiko.com>